

## 近世後期～明治初年における福岡藩無足組菅家の動向

佐賀女子短期大学  
久保 知里

### はじめに

これまでの研究：菅兵右衛門重遠による「覚書（日記）」<sup>1</sup>を使用し、下級藩士たちの婚姻関係、「御書物預り」の役職に関すること等

下級家臣のネットワークを明らかにし、そこに流布した情報を明らかにする  
近世後期～明治初年にかけての下級家臣の実態

今回の課題：菅家に関する史料の整理

近世後期の菅家の状況を確認し、幕末以降の動向を明らかにする  
「御国端守衛」について考察

### 1. 菅家について

新修福岡市史／【横田2007】／【拙稿2009, 2010】

#### (1) 菅家の系譜（概要）

・菅和泉正利から続く家【菅家系図】

伊勢田氏→菅氏【史料1】

・直方藩へ出仕→享保11年（1726）廃藩に伴い福岡へ

・役職：兵七好久…会所奉行／直方古御館御家預

弥右衛門好直…御姫様方御小姓／御郡記録清書寸志／御用帳書抜御用／奥御宝蔵御番／御台所目附

兵右衛門重遠…御書物預り

五八郎正格…（抜刀指南役）／二ノ銃士／井原村保長

直…鉄砲隊→農業従事へ

※近世後期～明治初年：菅兵右衛門重遠／菅五八郎正格（梅塘堂）／菅直

#### (2) 史料の所在と内容

・所在

①檜垣文庫（九州大学附属図書館付設記録資料館）②宮崎（勝）文書（福岡県立図書館マイクロフィルム）③安川巖収集資料（福岡市博物館）④菅家資料（同）⑤福岡藩関係史料（同）⑥菅直登氏所蔵菅家文書

⑦水崎家文書→『黒田三藩分限帳』収録の「慶応分限帳」

◎目録収録のみ：菅（直）文書（福岡県立図書館）

菅（直）文書（『福岡市歴史資料所在確認調査報告書』1982年）

<sup>1</sup> 菅兵右衛門は日記を後年まとめて（分類などをして）、「覚書」としてまとめていたと考えられる【拙稿2010, 梶原2014】。なお、この後の調査により、慶応元年の日記が現存していることが新たにわかった。さらに「覚書」を抜粋したものを作成している（内容は覚書とほぼ同内容）こともわかった（但し、「覚書」とは異筆と考えられる）。

・内容

- ①直方藩関係…（兵七）主として「直方古御館御家預」の職務に関する事。最終的には館を解除するため、その道具に関する事、館の解除にかんすることの書状類
- ②家譜・家系に関係…明細書、系図類→加瀬家との繋がり
- ③日記<sup>2</sup>…（兵右衛門）日記を「覚書」として後年編纂（「覚書」：文政 4～7、9、天保元、2、4、弘化 3、安政 6 年／日記：文久 2、慶応元年）。それを書き抜いた「抜書<sup>3</sup>」も存在<sup>4</sup>。  
役職・家族に関して幅広く記事がある。
- ④御書物預り関係…（兵右衛門）勤務記録／蔵書目録
- ⑤書状…（兵右衛門）役職関係／亀井鉄次郎  
（五八郎）抜刀（武芸）に関することが多い
- ⑥明治以降…井原村移住後の土地集積関係／書状など

## 2. 御書物預り 普兵右衛門重遠【表 1】

### (1) 役職について

※御書物預り＝藩の書物（本丸北の櫓に保管）されていた書物の管理

主に貸出と年に 1 度の虫干し（「御風当」）、年末の返却催促が主な業務

貸出先：基本的には家臣／奥／学問所

家臣が藩の書物を借りるためには、支配頭を通した願書の提出と月番家老の許可を経る必要があった。

・44 年間御書物預りとして出仕

…御書物預りは通常 2 名体制。わかる範囲では上野久右衛門、奥山鉄八、戸次彦介、梅沢利平、亀井鉄次郎が同職にあった。<sup>5</sup>

・安政 2 年（1855）御仕法替によって罷免（安政の改革の一環により役職廃止カ）

### (2) ネットワークの広がり

木全家：市郎大夫（馬廻組）【大西】兵右衛門実弟・重威（文化 11 年に養子に）<sup>6</sup>

松井家：権蔵（家業御筒役 5 石 5 人／古大鋸谷<sup>7</sup>）【大鋸谷】兵右衛門妻（お栄）の父

磯野家：形右衛門（馬廻組 100 石<sup>8</sup>）【山上】松井権蔵の弟

加瀬家：嘉兵衛（丈七／両市中町屋御扶持 3 人<sup>9</sup>）、丈七、作兵衛【湊町】兵右衛門後妻・イトの母の親戚。のち菅家の銀主ともなる。

<sup>2</sup> 史料の詳細は註 1 参照。

<sup>3</sup> 檜垣文庫 171-47「日記」。

<sup>4</sup> 資料目録の年代は天保元～万延 2 年となっているが、実際には天保元、2、7、10、11、弘化元～3、5 年しか記述はない。また、記述のない年は年号のみがふってあるが、年号も安政 6 年までしか書き込まれていない。筆跡は「覚書」とは違うもの。家関係、家督相続や人事、縁組み、火事などの事件と内容が多様であり、何を基準として抜き出しているのかがはっきりしない。

<sup>5</sup> 全員が無足組、城代組の藩士。学問に秀でた家の人物が多数。

<sup>6</sup> 安川巖収集資料 507

<sup>7</sup> 「文化分限帳」（福岡地方史談話会編『福岡藩分限帳集成』、1999 年）

<sup>8</sup> 「文化分限帳」（『福岡藩分限帳集成』）

<sup>9</sup> 「慶応分限帳」

三宅家：益順（御医師 3 人<sup>10</sup>）兵右衛門娘・幸の嫁ぎ先

服部家：屋作 五八郎妻の実家

- ・ネットワークを介した情報の集積  
→情勢に関すること／周囲の状況など  
…自身が移動しなくとも、周辺の人物が江戸・京都・長崎などへ派遣されている
- ・情報や知識を残すという行為（日記の編纂）

### 3. 家督の交代／井原への移住「御国端守衛」

#### (1) 家督の交代

五八郎へ家督／五八郎の無足組編入【表 2】

動乱に伴い京都守衛などに就く→父・兵右衛門とは違い、「武」を以て出仕

「二ノ銃士」<sup>11</sup>へ編入【史料 2】／「御国端守衛」として怡土郡井原村<sup>12</sup>へ移住

#### (2) 「御国端守衛」について

- ・明治元年 10 月頃、域境守衛として一ノ銃士・二ノ銃士・三ノ銃士たちを境目（国端）に在住させる【史料 3】<sup>13</sup>

→「永住」することが想定されている／退身・転役・退役の際には帰福が認められる  
旅行などは禁止

速やかに引越を行うことが命じられている

##### ※中老の郡在住について

〔 文久 3 年（1863）頃、中老が在住を命ぜられる

「中老在住の目的は、従来郷筒と呼ばれていた鳥銃所持の百姓を農兵隊に編成するとともに、家臣を率いて郡に移住させ、藩境の防備を固めることにあったようである」<sup>14</sup>

- ・移住に際してかかる費用について難渋するものへは拝領金を与える旨【史料 4】
- ・五八郎は一緒に移住を命じられた者と下見へ【史料 5】：10 月 8 日～  
→下見の結果、生活していく上で不都合な場所であったため、振替えを要求【史料 6】  
その後、要望がどの程度通ったかは不明。  
…引越後の絵図カ（もしくは下見の際のものカ）【図】<sup>15</sup>
- ・引越【史料 7】：11 月 29 日  
→引越しのための人馬が不足しているので増員を要望
- ・引越直前に屋敷の売却【史料 8， 9】
- ・在住所での家作代金を受け取る【史料 10】

<sup>10</sup> 「安政分限帳」

<sup>11</sup> 明治初年以降の組編成については、【井上 2012】を参照。また、万延元年（1860）、慶応元年（1865）に兵制の改編も実施された（瀬戸【2012】ほか）。

<sup>12</sup> それまで菅家は地行一番町に居住。

<sup>13</sup> 【史料 3～5】は一連の史料であるが、便宜上 3 つに分割した。

<sup>14</sup> 近藤【2010】

<sup>15</sup> 菅直登氏所蔵菅家文書 100-1 「〔絵図〕」

### (3) 明治以降の菅家

- ・明治初年冬 兵右衛門死去
- ・直の家督相続【表3】…明治6年(1873)4月
- ・井原村の保長(五八郎)【史料11】
- ・地元の庄屋と姻戚結合(三苦家)
- ・家禄奉還【史料12】→農作従事(家禄奉還の資本金を以て)【史料13】→土地の集積

### おわりに

- ・菅家関係の史料  
享保～明治／内容も多岐にわたる／整理・発掘の継続
- ・近世後期～明治初年の菅家  
「文」専門の兵右衛門、「武」に傾倒した五八郎、農業従事へシフトした直  
→明治にかけての下級家臣の一事例として貴重
- ・「御国端守衛」  
今後、傍証史料の集積が必要／明治初年における藩内の動向を確認／それに伴う家臣たちの動きや生活も見通すことが可能

### 【参考文献】

- 井上隆明「明治維新後の福岡藩の兵制について—士族隊を中心に—」(『福岡市総合図書館研究紀要』第12号, 2012年)
- 梶原良則「菅重遠覚書(史料解題)」(福岡市史編集委員会編『新修福岡市史』資料編近世2家臣とくらし, 2014年)
- 近藤典二「郡役人の在住制について—在住所と宿場—」(『福岡地方史研究』第48号, 2010年)
- 拙稿「藩士たちの婚姻—近世後期福岡藩を事例として—」(『七隈史学』第11号, 2009年)
- 「近世福岡藩における御書物預りと書物管理」(『福岡大学大学院論集』第42巻第2号, 2010年)
- 瀬戸美都子「明治初年福岡藩の農兵隊成立の史料—石橋文書にみる早良・志摩・怡土三郡への達書」(『地域史料研究会・福岡研究会報』第2号, 2012年)
- 横田武子「福岡藩無礼討ち事情—近世武家社会の秩序維持の陰で—」(『福岡地方史研究』43号, 2005年)